

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	困難を抱えた10代にLINEで相談事業
資金分配団体名:	公益財団法人 信頼資本財団
実行団体名:	認定NPO法人D×P
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	全国
事業対象者:	不登校や高校中退者、進路未決定の10代、経済的困窮の10代、ひとり親の10代

Version 3.2

日付：2022年3月9日

## I. 事業概要

事業実施概要	経済的困難やひきこもり、障害などの背景で孤立しやすい10代に、LINEで相談を行います。オンライン上で気軽に生活相談や進路や就職に関する相談ができる仕組みをつくり、ひとりひとりの特性に合ったつながりと、本人が次のステップを踏めるよう働きかけます。直近の生活が逼迫した相談者には、食糧支援を行ない、スキルをつけたい相談者にはパソコン支給をします。虐待、自殺など重たい相談の場合は自治体、企業とも連携し、次の一歩へとつなげます。
--------	--

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>学校がオンライン授業に変わり、これまでセーフティネットとして機能していたリアルな場や居場所がなくなり、オンラインでのサポートの必要性を感じた1年でした。</p> <p>新型コロナウイルスの影響を受け、学費や生活費を自分で工面している学生がアルバイトが出来ず困窮状態になったり、自宅に親御さんが居る時間が増え虐待を受ける機会が増えた中高生、学費を滞納していて学校が卒業できない高校3年生、児童扶養手当がもらえていないシングルマザー、等々、これまでに想定しえなかった様々なケースと向き合ってきました。このように、1つのケースの中でも課題が多様化しているため、弊社1社だけで支援をするのではなく、それぞれの課題に専門性がある行政・企業・NPOなどと協働しながらサポート出来るような動きを取りました。</p> <p>10代にとって、政府や行政などの公的機関から出されている支援を見つけたり、内容を読み解き、自分は対象であるか判断すること自体が非常に困難です。こういった施策を相談員が読み解き、相談者が申請出来ないかを検討・提案したり、必要に応じて、申請書を印刷して送付したり、記入のサポート、同行で申請をしたりなど、きめ細やかなサポートを行いました。</p>
-------------------	--

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	その他	困難を抱えた2000人の10代がユキサキチャットに登録する。	ユキサキチャット登録者数	ユキサキチャット登録者数：2000人	3334人 累計7737人	登録者数の半分は、現金給付・食糧支援の希望だが、不登校・引きこもりの相談は13%、進学・就職の相談は17%と、多種多様な相談に対応しています。 ※現金給付は今回の事業には該当しないプロジェクトとなります。
子ども・学生	その他	ユキサキチャット登録者の中で、さまざまな困難な状況を抱える10代1000人の相談に応じる。	ユキサキチャット相談者数	相談者数：1000人	1597人	現金給付・食糧支援を積極的に行うことで、登録者数に対して、実際に相談をする相談者の率も昨年の41%から45%に向上しており、相談者数も増えています。 ※現金給付は今回の事業には該当しないプロジェクトとなります。
子ども・学生	その他	相談後、なにかにつながった回数（ネクストアクション数）は1000回となる。	ネクストアクション数 食糧支援数、パソコン給付数	食糧支援数：のべ180人 パソコン給付：80台	食糧支援：477名 パソコン給付：77台	食糧支援はコロナ禍による需要増により、大幅な人数増となりました。（2020年と比較すると約7倍の人数を配布。2020年は67名、のべ157名に配布）購入する費用も大幅増となりましたが、食糧購入費の46%を今回の助成金の資金を活用することができ、若者に届けることができています。
その他	その他	相談事業のノウハウを他団体に共有する研修イベントを10人（団体）に実施する。	研修実施数	研修を受けた人数もしくは団体数：10	15名・4団体 その他 デジタル庁×こども家庭庁への提言でのイベント	LINE相談や給付の仕組みを導入したい企業や団体からの研修依頼があり次第、情報提供を行いました。

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	近畿圏在住の、さまざまな状況により困難を抱え孤立している10代ひとりひとりが、頼れる先があり次への一歩へとつながっている状態を目指します。
考察等	オンライン相談を通じて近畿圏内にお住まいの方と出会い、生活相談を受ける中でどうしても行政への申請手続きが難しい状態となっている方と一緒に行政の窓口へ同行し、申請手続きを進めました。また、相談者の中には直接会って話をしたいと仰る方もおり、事務所に面談を行いました。こういった、リアルとオンラインを掛け合わせることで繋がりを作れるケースもあります。特に近畿圏内では事務所を活用することが出来るので、引き続き継続をしていきます。

## V. 活動

活動	進捗	概要
ユキサキチャットにて不安や困りごと	計画通り	様々な広報施策を行うことで、登録者数は順調に伸びています。今後も、定期的に相談者に声かけをしたり、様々な
毎月のべ20人～30人に食糧支援	計画通り	現状、月90～180名程度に発送しており、計画より大幅に超えています。これにより、予算修正や人員体制、管理体制を追加で整
PC寄贈の募集と配布	ほぼ計画通り	Webページ上でPC寄贈を募り、19歳までの方で、経済的にPCを買うことが出来ない方を中心にお渡しをしました。中古のPCは、
他団体への研修イベント実施	ほぼ計画通り	社内リソースを相談対応と食糧支援対応に重点を置いたため、積極的な広報は控え、繋がりのある企業や個人の方を中心に研修を

## VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	他の団体や施設からD×Pのユキサキチャットを紹介いただくことが増えました。相互支援ができるようになったことが大きな成果です。また、全国の支援者とながり連携して相談者のサポートを行っています。生活の相談を受けていると、どうしてもリアル支援が必要なケースが出てきます。例えば、虐待を受けている、完全に引きこもっている状態、債務整理が必要、同行支援が出来ない地域での行政窓口への申請サポート、制度対象であるはずだが上手く受けられていない、などです。こういった場合が発生する度に、相談者がお住まいの地域で活動されている様々なリソースを見つけ、問い合わせを行い、丁寧につないできました。こういった地道な活動のおかげで、全国の支援者とのつながりが出来てきました。また、他の団体で対応に困っているケースを、一部D×Pで担当するような連携も生まれました。
---------------------	---

## VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	新型コロナウイルスの影響は長期化すればするほど、なんとか紙一重のところまで耐え抜いてきた10代を段階的に疲弊させ、本来やりたかったことに向かう活動量が落ち、生活が成り立たなくなる、そういった状況をたくさん目にしてきました。緊急事態宣言も、回を重ねる毎に深刻なケースが増えました。普段、1箱30食程度の食糧支援×3ヶ月間を行っていますが、これだけではどうにも家計を回復することが出来ないケースが出てきています。家計が圧迫されてくると、どうしても削りやすい食費が最初に圧迫され、週に2〜3回食べない日がある相談者もいます。現在のコロナの環境で体調不良を起こすと、途端に生計を立てているアルバイトが出来なくなったり、行政に手続きが行けなくなったりなど生活に直結する活動が出来なくなる可能性が高まります。食べ物を直接送ることは、こういった体調管理にアプローチ出来る意義もあります。この状況に加え、昨今のウクライナ情勢に絡む物価上昇も、今後食費上昇による家計圧迫も懸念されます。より長期支援が必要な相談者もいるため、その際の半年〜1年の長期支援パッケージを作ることを考えています。引き続き相談者が食事を十分に出来ているかどうか、モニタリングを続けていきます。サポート希望者の約6割が、借金や支払い滞納をしている中、消費者金融やリボ払いを利用し債務が数百万円あるケースもありました。こういったマネーリテラシーを向上出来るツールや講習、またサポートを受けられる機会も作る必要があると感じます。
-----------	---

## VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
認定NPO法人フローレンス 4名	オンライン相談導入研修
N.K.C ナーシングコアコーポレーション 1名	オンライン相談導入研修
特定非営利活動法人ダイバーシティ工房 1名	オンライン相談導入研修
NPO法人あっとすくーる 9名	オンライン相談運営体制

## IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	15,835,665	15,835,665	100.0%
	管理的経費	2,164,335	2,164,335	100.0%
合計		18,000,000	18,000,000	100.0%

補足説明	
------	--

## X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	Yahooニュース <a href="https://www.dreampossibility.com/news/2509/">https://www.dreampossibility.com/news/2509/</a> FNNプライムオンライン
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	Note「ユキサキチャット」 <a href="https://note.com/yukisakichat/">https://note.com/yukisakichat/</a> 4度目の緊急事態宣言が出ている21都道府県にお住まいのみなさんへ。生活が不安な15〜25歳の人にユキサキチャットからお金を
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	webのトップページにシンボルマークを掲載しています。 <a href="https://www.dreampossibility.com/">https://www.dreampossibility.com/</a>
4.報告書等	公的支援が届きづらい若年層-コロナ禍で困窮する若年層の約6割が借金や滞納を抱えています【#ひとまずごはん レポート】 <a href="https://www.dreampossibility.com/times/3771/">https://www.dreampossibility.com/times/3771/</a>

## XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	

②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	<p>【社員総会】 2021年5月20日 2020年度事業報告並びに活動決算承認の件、2021年度事業計画並びに活動予算承認の件、役員退任の件</p> <p>【理事会】 2021年5月19日 通常社員総会開催の件 2021年5月20日 2020年度事業報告並びに活動決算承認の件、2021年度事業計画並びに活動予算承認の件、役員退任の件</p>
2. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	認定NPO法人D×Pにまつわる、不正行為・ハラスメント・その他法令に違反する行為を見つ
3. 関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4. コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5. ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部通報/ハラスメント対応窓口を設置し、外部の臨床心理士に対応いただけるようにしました。</li> <li>・経理担当者を増員しダブルチェック/不正予防に取り組みました。</li> <li>・就業規則を改定、全スタッフで読み合わせをし、労務改善を行いました。</li> </ul>
6. 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	わかば経営会計の大磯さまに監査を行っていただきます。
7. 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	

## XII. その他

自由記述
<p>助成いただいた費用を元に食糧支援、PC給付などプロジェクトを立ち上げることが出来、様々な背景がある10代にアプローチ、LINE登録に結び付けることが出来ました。相談者にとって、このコロナ禍では、今はなんとか生活が成り立っていても、ふとしたきっかけで忽ち生活が成り立たなくなる状況になる可能性が大いにあり、そんなときに普段使っているアクセスしやすいLINEで相談ができる機会を届けることができました。引き続き、相談者に声をかけ続け、安心して相談が出来る場所として運営を続けていきます。食糧支援では、毎回スタッフが手書きで相談者に宛てて手紙を同封しているのですが、その手紙がLINE上でのやりとりにつながったり、ある相談者の方は、その手紙を全て保管し、ときどき並べて眺めたりするようです。相談員と相談者という関係ではなく、ひとりの人としてのつながりを大切にし関係性を構築していく取り組みを、今後も続けていきます。この度は助成いただき、ありがとうございました。</p>